

事業概要：製造業のスタートアップとイノベーションを促進する、 「企業に寄り添うパートナーシップ型工業技術センター」整備事業

旧制度（拠点）

※PFI活用

申請者	滋賀県	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,263,174千円 (1,049,638千円)
事業タイプ・類型	地方創生拠点整備タイプ	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	・東北部工業技術センターを統合移転し、企業に寄り添う技術開発・試作・評価・販路支援の拠点として機能強化を図る。 ・オープンラボ、オープンサロン、サテライト室、工場棟等を整備し、県内企業の技術相談、共同開発、商談機会の創出を促進する。 ・北部地域の製造業の競争力向上、スタートアップ・イノベーション創出、理系人材の県内定着につなげる。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 既存の東北部工業技術センターの統合移転において、オープンラボ（研究シーズを事業へと繋げる場）を整備し、ベンチャー等を創出するための環境を整えとともに、オープンサロン（製品を「売る」ための支援場）、サテライト室（立地的に不便な企業の経営支援強化）、工場棟（製品の試作・評価）の整備により、オープンイノベーションの加速を図る。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○施設整備等経費（設備整備・用地造成を除く） ・建築物本体工事 建築工事費 730,742千円 ○効果促進事業（ハード事業）経費 ・設備整備 設備整備費 203,360千円 ・外構工事 115,536千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①滋賀県北部の製造品出荷額（+80億円） ②オープンイノベーションセンターを活用し、県内企業が県外の企業と商談を行った件数（+100件） ③東北部工業技術センターの技術相談対応件数（+1,000件） ④理系大学出身者の県内企業への就職者数（+120人）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)

事業概要：デジタルプラットフォームを活用した関係人口拡大事業
「かかわりファクトリー滋賀」

旧制度（推進）

申請者	滋賀県	初回採択回	令和４年度第１回募集
事業計画期間	R４-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	224,798千円（39,356千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・Society5.0型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	・デジタルプラットフォームを活用し、県外人材が滋賀県の地域課題や地域づくりに継続的に関わる仕組みを構築する。 ・地域プロジェクト情報の集約、デジタル地域コミュニティ通貨の導入、デジタル人材育成を通じて関係人口の参画を促進する。 ・関係人口の力を地域課題解決に活かし、デジタル実装による地域活性化と継続的な人材循環につなげる。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 県内の地域づくりや地域課題解決に関するプロジェクトを集約するデジタルプラットフォームを導入し、県外人材が滋賀県に関わる「かかわりしろ」を継続的に生み出す。デジタル地域コミュニティ通貨を活用し、地域内外の人材が活動に参加しやすい仕組みを構築するとともに、デジタル技術を活用できる人材育成を行う。これにより、関係人口の拡大と地域課題解決の好循環を形成する。	滋賀県の「かかわりしろ」を全国に向けて発信 一例： お祭りのダシ制作のお手伝い  仲屋町（近江八幡市） 【左義長まつり】左義長ダシ制作のお手伝い いしてくれないませんか +2000 もらう 地域を支える人材が 県内で継続的に活躍 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○デジタルプラットフォームの導入 ・システム運営（負担金）17,028千円 ・体制管理費（負担金） 3,972千円 ○デジタル地域コミュニティ通貨の導入 ・システム運営（負担金） 6,050千円 ・データ分析費（負担金） 2,550千円 ○ひとづくりの推進（デジタル人材の育成） ・エリアコーディネーター配置（負担金）5,400千円 ・普及促進（負担金）4,356千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①デジタルプラットフォームを通じた関係人口創出数（+8,000人） ②デジタルプラットフォームへのプロジェクト掲載件数（+2,904件） ③デジタル地域コミュニティ通貨のユーザー数（+20,700人） ④デジタル地域コミュニティ通貨のスポット数（+1,575件）	URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html （令和８年７月公表予定）

事業概要：滋賀の地域資源の発掘・保存・磨き上げ・活用
サイクル化プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	滋賀県	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	144,494千円 (47,571千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	・滋賀県の文化・歴史・自然等の地域資源を発掘・保存・磨き上げ、観光や交流につながる活用サイクルを形成する。 ・文化観光の推進、地域資源をつなぐツアー造成、一体的な情報発信等により、国内外からの誘客を図る。 ・地域資源の価値を県民・来訪者が享受できる環境を整え、観光消費額と地域経済への波及効果を高める。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域資源の発掘・保存・磨き上げ・活用を一体的に進め、文化観光を通じた誘客と地域活性化を図る。県内の文化、歴史、自然等の地域資源をつなぎ合わせ、ツアー造成、情報発信、県立美術館等の文化施設と連携した取組を行う。これにより、県民や来訪者が地域資源の魅力を享受できる環境を整え、観光入込客数や観光消費額の増加につなげる。 【R8年度事業 経費内訳】 ○本県特有の地理的要因（地域資源の点在）対応 ・近江の文学普及事業（委託料）3,400千円 ・美の魅力一体的発信事業（委託料）2,860千円 ○本県特有の地理的要因（北部地域の振興）対応 ・「近江の城」魅力発信事業（補助金：6,500千円、委託料：3,630千円、使用料：685千円 他） ○本県特有の地理的要因（近畿圏における立地）対応 ・シンボルスポーツ創出・定着事業（補助金）13,924千円 ・滋賀の文化観光推進事業（補助金）4,200千円 文化 滋賀県立美術館  歴史 近江の城  自然 滋賀の造形作品  スポーツ ツアー造成 周遊・滞在		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域における観光消費額（+105.49億円） ②地域における観光入込客数（+3,162.48千人） ③地域における観光入込客数による地域への経済波及効果（+0.40倍） ④県立美術館の展覧会観覧者数（+35.00千人） URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)		

事業概要：滋賀の観光産業における“新”観光力創出プロジェクト

継続

申請者	滋賀県ほか 5 自治体※					初回採択回	令和 7 年度第 1 回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	873,831千円 (283,815千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・トランスフォーマティブトラベル、観光DX、メタ観光を組み合わせ、滋賀ならではの新しい観光力を創出する。 ・学びや行動変容につながる高付加価値コンテンツの造成、観光データ活用、デジタル上の情報連結を推進する。 ・インバウンドや教育旅行を含む誘客を強化し、宿泊者数、観光消費額、外国人観光入込客数の増加につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 滋賀の観光産業を強化するため、刷新力、獲得力、連結力の 3 つの新しい観光力を創出する。学びや行動変容を促すトランスフォーマティブトラベルの造成・プロモーション、DMP等を活用した観光DX、デジタル上で地域資源をつなぐメタ観光を推進する。県と市町が連携し、高付加価値旅行者、インバウンド、教育旅行等の誘客を進め、宿泊者数と観光消費額の増加につなげる。					「刷新力」で取り組む「トランスフォーマティブトラベル」のイメージ 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・国内観光活性化事業（補助金） 76,642千円 ・インバウンド誘客力向上事業（補助金） 60,034千円 ・大津市三大祭事業補助金 16,153千円 ・観音文化の「体験」と「交流」による承継を支援（負担金） 1,940千円 ・外国人観光客の誘客と 受入れ体制の強化を支援（委託料） 5,360千円 ・HMDシステムでの普及啓発業務 770千円 ・自転車活用推進人材育成等支援業務（委託料） 297千円 ・人流データを活用した 観光地分析及び周遊促進事業（委託料） 5,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	① 観光消費額（+ 510億円） ② 延べ宿泊者数（+ 56万人） ③ 外国人延べ観光入込客数（+ 29.3万人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和 8 年 7 月公表予定)

※滋賀県、大津市、長浜市、近江八幡市、守山市、東近江市の広域連携事業

申請者	滋賀県ほか 3 自治体※					初回採択回	令和 7 年度第 1 回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,391,735千円 (504,433千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・人口減少が進む北の近江地域において、移住促進、関係人口創出、地域産業振興、観光振興を一体的に進める。 ・長浜市、米原市、高島市等が連携し、若者・外部人材との共創、企業・大学との連携、地域資源を活かした魅力発信を実施する。 ・地域へのUIターン、連携プロジェクト、観光入込客数の増加を通じて、持続可能な地域づくりにつなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 北の近江地域における人口減少、若者流出、関係人口不足、地域産業の担い手不足に対応するため、県と長浜市・米原市・高島市等が連携して事業を実施する。 当該地域は、地理的背景等を要因とする独自のくらし文化が営まれてきており、他地域にはない魅力やポテンシャルを有する地域である。 そのポテンシャルを十分に発揮させ、若者や外部人材との共創、移住促進、シビックプライド醸成、企業・大学との連携、首都圏での魅力発信、観光・地域資源を活かしたプロジェクトを進めることにより、UIターン、関係人口、観光入込客の増加を図る。					 北の近江振興 プロジェクト	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ＜人口流入を増やす、流出を減らす取組＞ ・移住コーディネーター事業（委託料）6,000千円 ＜関係人口・関係企業/団体を巻き込む取組＞ ・企業研修コーディネート業務（委託料）12,790千円 ＜エリア内の一体的な取組の推進や魅力の発信＞ ・北の近江振興プロジェクト推進補助金（補助金）120,000千円 ＜地域力を活かした取組＞ ・豊臣兄弟博覧会開催事業（委託料 等）98,570千円 ○拠点整備事業 ・（仮称）小谷城戦国体験ミュージアムの整備 152,197千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域へのUIターン増加数（+ 350人） ②新規エリア連携プロジェクト（+ 25件） ③北部地域への観光入込客数（+ 3,198,390人） ④SMOUTランキング順位上昇値（4ランク上昇）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和 8 年 7 月公表予定)

※滋賀県、長浜市、高島市、米原市の広域連携事業

事業概要：「道の駅」活用・リニューアル&防災拠点化プロジェクト

継続

申請者	滋賀県、草津市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R11年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	3,398,366千円 (438,857千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・県内道の駅を観光・地域活性化・防災の拠点として再構築し、単なる休憩場所から周遊と交流を生む拠点へ転換する。 ・AIカメラ等による利用サービス向上、サイクルイベント、施設リニューアル、駐車場・アクセス道路整備を一体的に実施する。 ・道の駅の入込客数・売上高の増加、ピワイチ等との連携による観光消費の拡大、防災機能の向上につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 県内道の駅を観光、地域振興、防災の拠点としてリニューアルし、休憩場所にとどまらない周遊・交流拠点へ転換する。AIカメラ等を活用した駐車場利用状況の把握、ピワイチサイクリングナビとの連携、サイクルイベントやスタンプラリー、物販施設の利用促進を実施する。併せて、施設リニューアル、駐車場、アクセス道路等を整備し、道の駅の集客力と防災機能を高める。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・カメラ設置による利用サービス向上事業 3,000千円 ○拠点整備事業 ・建築物の設計 23,857千円 ○インフラ整備事業 ・道路整備事業 412,000千円 道の駅へのアクセス道路整備、道の駅の駐車場整備等						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+754億円） ②道の駅「草津」における入込客数（+24.5万人/年） ③道の駅「草津」における売上高（+312百万円/年）					URL ※交付金の具体的用途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)

事業概要：しがテックイノベーション創出事業

継続

申請者	滋賀県					初回採択回	令和7年度第1回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,145,057千円 (445,251千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	・県内企業の新分野参入や技術高度化を支援し、半導体、AI、航空宇宙等の成長分野に対応できる産業基盤を強化する。 ・セミナー・特別講座によるリスキリング、企業ニーズと技術シーズの橋渡し、新規設備の整備により、研究開発と製品化を促進する。 ・県内製造業の付加価値向上、新技術を有する企業の創出、理系人材の県内定着につなげる。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 半導体や宇宙、AIなど将来の本県産業をけん引する分野への中小企業の新規参入を促すため、大学等と連携し、以下の取組の好循環により、イノベーションの創出と本県経済の活性化を図る。 ①大学等との連携による技術人材育成プログラムによる企業の新分野進出の橋渡し「リスキリングブリッジ創出事業委託」 ②中小企業の技術開発の挑戦をサポートするため、工業技術センターをイノベーションの拠点とする「イノベーションベース整備」					しがテック イノベーション創出事業 半導体、AI、宇宙、サステナビリティ等の次世代産業への進出 ★新分野進出への情報提供 ○リスキリングブリッジ創出事業委託 目的に応じた講座プログラムによる知識の習得による新分野への橋渡し  ★技術開発に必要な環境（研究開発＋人材育成）を整備 ○イノベーションベース整備 ・関連装置の設置による企業等の開発環境拠点の整備 ・研究開発、評価分析に携わる高度人材育成  工業技術総合センター 東北部工業技術センター		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・リスキリングブリッジ創出事業 20,000千円 半導体、AI、航空宇宙等の新分野に関するセミナーや特別講座を開催し、県内企業の技術知識の高度化を支援する。 ○拠点整備事業 工業技術センターに、評価施設を整備する。 ・建築物整備 24,255千円 新分野の研究開発・技術支援に必要な拠点機能を整備する。 ・設備整備・用地造成等 400,996千円 県内企業の試作、評価、共同研究に必要な開発設備等を整備する。							
主なKPI	①滋賀県製造業の付加価値額増加率（＋0.58%） ②利用上位20社の製造品出荷額の増加率（＋9.0%） ③〃現金給与の増加率（＋1.7%） ④〃雇用者数の増加率（＋2.5%） ⑤両工業技術センターに導入する設備の利用件数（＋2,776件）					URL ※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)	

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要：（仮称）水と緑と人でつながる「THEシガパーク」おもてなしプロジェクト

継続

申請者	滋賀県					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R12年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	5,279,034千円 (1,127,051千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・県内公園を「THEシガパーク」として一体的に捉え、DX、魅力発信、移動体験、健康づくりを通じた新たな公園利用を促進する。 ・WEBカメラや位置情報データの活用、パーソナルモビリティ、周辺施設との連携、案内設備等の整備を進める。 ・公園の快適性と回遊性を高め、観光消費額、公園利用者数、公共交通利用者数の増加につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 公園利用者の増加を目指してTHEシガパークの拠点となる各公園のインフラやおもてなし施設等の整備による快適性や魅力の向上を行うとともに、公園間で連携した一体的な広報や連携イベントを実施する。 さらに、公園を拠点とした周遊観光・長期滞在につながるように、公園と周辺の施設間での周遊を促進するソフト事業を実施する。 加えて、自動車や自転車等による公園や他の観光施設の周遊を促進するため、施設間の道路を整備する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・公園の快適性の向上および公園間で連携したPRの推進 34,983千円 ・公園と他の観光施設間での周遊を促進 131,968千円 ○拠点整備事業 ・シガパークのおもてなし施設(トイレ、駐車場、看板)を整備 185,100千円 ○インフラ整備事業 ・琵琶湖岸の公園のインフラ等の整備 335,000千円 ・周辺の道路環境整備や自転車等の周遊のための道路整備 440,000千円						
主なKPI	①地域における観光消費額（＋753億円） ②シガパークにおける年間利用者数（＋378千人） ③JR在来線の利用者数（＋17,076人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

繼續

申請者	滋賀県						初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	125,000千円 (43,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	歴史や文化財に恵まれ、鉄道網が充実している滋賀県のポテンシャルをさらに磨き、特定スポットや一過性の来訪にとどまらず、複数のスポットを周遊しながら、文化財や地域のコンテンツの価値を面的に楽しむことにより、地域そのものに魅力や愛着を感じさせ、経済波及効果を向上し、公共交通を活性化させる、サステナブルな観光を創出する。 滋賀県を代表する観光地であり、世界遺産登録を目指す彦根城周辺において、“ウォカブルなまち”のシンボルとなる、最新の自動運転EVバスの導入や、店舗・施設等との連携に取り組むことにより、徒歩と公共交通による、快適な回遊環境を創出する。これにより、観光客の周遊・分散を促進し、まちのにぎわい創出や交通渋滞の解消を図る。さらに、公共交通での県内他地域への周遊を促すことで、来訪者の満足度向上、滞在日数の増加、観光消費額の増加、公共交通の活性化に寄与する。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 彦根城周辺において、世界遺産登録後を見据え、“ウォカブルなまち”のシンボルとなる“楽しく、グリーンな移動手段”として、自動運転EVバス導入や店舗・施設等との連携、持続的な観光に向けたおもてなしのひとづくりに取り組む。 徒歩と新たな公共交通による快適な回遊環境を創出することで、観光客の周遊・分散を促進し、まちのにぎわい創出や交通渋滞の解消を図る。 また、公共交通での県内他地域への周遊を促すことで、来訪者の満足度向上、滞在日数増加、観光消費額増加、公共交通の活性化に寄与する。						  	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 自動運転バスや店舗等と連携した取組による回遊環境の創出、おもてなしのひとづくりを実施する。 ・自動運転EVバスの実証運行（委託料）42,000千円 ・公共交通（エコ交通）での周遊応援店舗等育成（委託料）200千円 ・おもてなしのひとづくり（委託料）800千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①県内における観光消費額（+510億円） ②JR在来線の利用者数（+8,538人） ③自動運転バス、エコ交通応援店舗利用者の再利用意向（+60%）						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html （令和8年7月公表予定）

事業概要：人材循環で拓く持続可能な地域創造事業

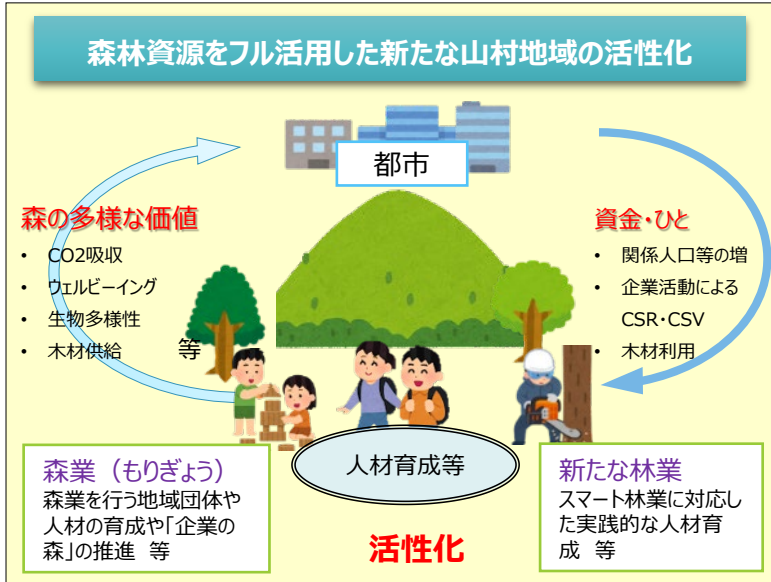
新規

申請者	滋賀県ほか 6 自治体※					初回採択回	令和 8 年 1 月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	915,449千円 (277,359千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・若者、都市部人材、外国人材等が滋賀県と継続的に関わる人材循環の仕組みづくりを構築し、移住・定住と地域課題解決を促進するとともに、地域地場産業の企業に対しても適宜適切な人材共有ができるようにする。 ・「就職のハブとなる機能」の創出・強化や「地域で活躍する多様な人材・担い手の育成・確保事業」などにより、地場産業の人材確保に寄与する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 県と市町が連携し、若者、都市部人材、外国人材等が滋賀県と継続的に関わる人材循環の仕組みを構築する。県は広域的な魅力発信、相談・交流拠点の運営、コーディネーター育成等を行い、参画市町は地域の特色を踏まえた交流・関係人口創出事業を実施する。若者へのアプローチ、人材循環の環境整備、持続可能な地域づくりを一体的に進め、移住・定住や地域活動への参画につなげる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ①若者へのアプローチ ・人材循環に向けたしがジョブパークの機能強化（委託料 等）14,178千円 ・若者に選ばれるまち推進事業（委託料 等）24,973千円 ②人材循環の促進に向けた環境整備 ・“選ばれる滋賀”創出推進事業（委託料） 56,685千円 ・まちの発信能力の向上による交流人口・関係人口の創出事業（委託料 等）9,824千円 ③持続可能な地域づくり ・人材循環を前提とした新たな自治モデル構築に向けた高度ICT人材育成事業（交付金）14,646千円 ・地域で活躍する多様な人材・担い手の育成・確保事業（委託料 等）22,915千円						
主なKPI	①都市地域からの滋賀県への移住者数（+88人） ②「滋賀に誇りを持っている人の割合」の上昇（+3%） ③「滋賀に住み続けたいと思う人の割合」の上昇（+3%） ④地域循環にかかわるコーディネーター養成件数（+15人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和 8 年 7 月公表予定)

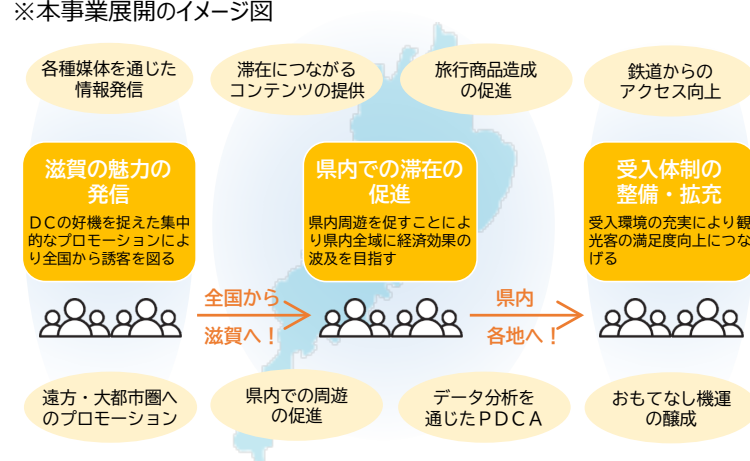
※滋賀県、大津市、長浜市、高島市、米原市、日野町、愛荘町の広域連携事業

事業概要：滋賀の山村地域リ・デザインプロジェクト

新規

申請者	滋賀県ほか 2 自治体※					初回採択回	令和 8 年 1 月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	184,071千円 (59,271千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・スマート林業や森業（もりぎょう）の推進により、山村地域の森林資源を持続的に活用し、林業の収益性向上と地域活性化を図る。 ・ICT技術を活用した施業、人材育成、木育施設「しがモック」の活用、地域資源を活かした取組を支援する。 ・林業従事者の所得向上、地域資源活用に取り組む団体・企業の増加、山村地域の新たな価値創出につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 I C T 最新技術を活用した効率的で収益性の高いスマート林業を実践できる人材の育成や、これからの県林業の中核を担う合併森林組合等に対する経営力向上のための取組等を推進することにより新たな地域林業の振興を図る。また、木育や森林空間利用、生物多様性保全の取組など山村地域での資源活用の取組を進めるとともに、都市部の企業や団体と山村地域をつなぐ「企業の森」を進めることで滋賀の森業（もりぎょう）を推進する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・スマート林業の推進（委託料）15,692千円 ・合併森林組合等の経営力向上および人材育成（委託料）9,966千円 ・長浜市内での林業振興等による地域活性化（委託料）8,038千円 ・山村資源を活用した地域活性化（委託料・補助金）11,400千円 ・企業と地域とのつなぐ「企業の森」の推進（委託料）7,832千円 ・高島市内での森林サービス産業の推進（委託料）6,343千円						
主なKPI	①林業産出額（+0.9億円） ②林業従事者の平均所得（+339千円） ③地域資源の活用に取り組む団体・企業数（+12団体）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和 8 年 7 月公表予定)

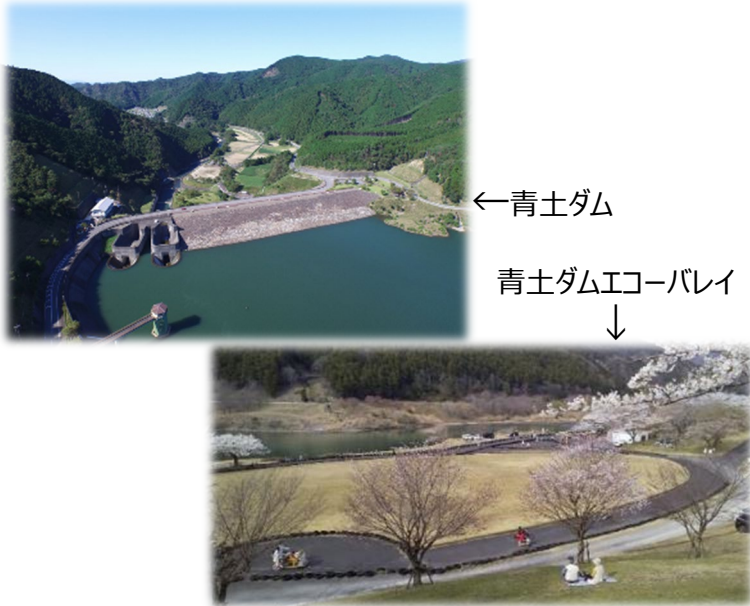
※滋賀県、長浜市、高島市の広域連携事業

申請者	滋賀県ほか10自治体※					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	675,138千円 (199,562千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・滋賀デスティネーションキャンペーンを契機に、鉄道を起点とした周遊・滞在型観光を促進する。 ・観光コンテンツの造成、人流データを活用した効果検証、情報発信、二次アクセス整備を一体的に実施する。 ・県内での滞在時間と宿泊を増やし、観光消費額、延べ宿泊者数、JR在来線利用者数の増加につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 滋賀デスティネーションキャンペーンの機会を活かし、鉄道利用を起点とした県内周遊・滞在型観光を推進する。観光資源を活かした特別な観光コンテンツの造成、鉄道等を利用した周遊企画、人流データに基づく効果検証、全国イベントでの情報発信、二次アクセス改善等を実施する。これにより、県内での滞在時間と宿泊を増やし、観光消費額の拡大につなげる。					※本事業展開のイメージ図 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・二次アクセスの充実に向けた取組支援（負担金）19,000千円 ・観光資源の商品化、タリフ整理、旅行会社を通じた販売網形成業務（委託料）6,050千円 ・地域の魅力で鉄道による誘客を促進するイベント開催を支援（補助金）24,280千円 ・草津市観光周遊促進事業（補助金）8,663千円 ・特別な観光コンテンツの創出（補助金）1,200千円 ・PR印刷物作成（印刷製本費）1,243千円 ・公共交通を活用した観光周遊企画の支援（負担金）10,000千円 ・地域の歴史的特性を軸とするイベント等の開催支援（補助金）5,000千円 ・滋賀デスティネーションキャンペーンを契機とした観光コンテンツ創出事業（委託料）1,000千円						
主なKPI	①観光消費額（+136億円） ②延べ宿泊者数（+67万人） ③JR在来線の利用者数（乗車人数）（+8.5千人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)

※滋賀県、大津市、長浜市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、東近江市、米原市、日野町の広域連携事業

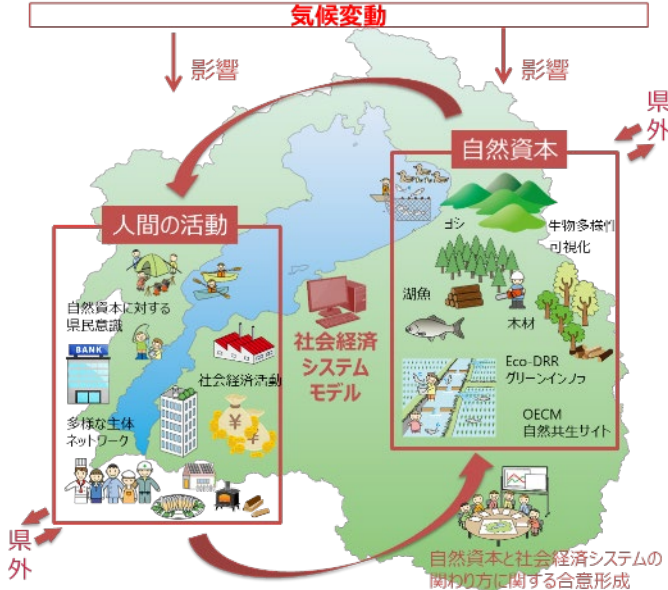
事業概要：ダムとサイクリングによる甲賀・日野地域活性化事業

新規

申請者	滋賀県、甲賀市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R12年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	983,200千円 (25,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・ダムやサイクリング、地場産品を活用したイベントを開催し知名度を向上させ、新たなファン層を獲得し訪問者の増加を図る。 ・甲賀地域、日野地域の2箇所のダムに拠点施設を設置し、近隣に存在する観光施設群をめぐる観光行動を促す。 ・2拠点を結ぶサイクリングコースに着目し、サイクリングで繋ぎ点を線へと変えて周遊性を高め、知名度の向上と滞在型観光を促進し、地域の付加価値向上と経済拡大による地域活性化を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 青土ダムと日野川ダムを核に、ダムの魅力とサイクリングを組み合わせた周遊観光を創出する。青土ダムではフォトスポット整備、既存公衆トイレ改修、ダム内部見学に向けた設備改修を行い、日野川ダムでは眺望や脇堤を活かした立寄り拠点化を図る。あわせて、自転車周遊ルート整備や、ダムをサイクリングでめぐる「サイクルツーリズム」と「ダムインフラツーリズム」が連携したイベント、地場産品を活用したマルシェ、普段は見ることのできないダム内部を見学できるイベント等を実施し、甲賀・日野地域の観光消費と交流人口の拡大につなげる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・公衆トイレ、ダムエレベーター改築に係る設計業務 25,000千円 ダム周辺の来訪者受入機能を高めるため、拠点施設の整備を行う。						
主なKPI	①滋賀県の観光消費額（+755億円） ②ダムカード配付枚数（+1,440枚） ③青土ダムエコバレー利用者数（+630人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)

事業概要：びわ湖発・科学的知見に基づく
ネイチャーポジティブ経済推進プロジェクト

新規

申請者	滋賀県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	363,129千円 (123,043千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・自然資本の保全・再生と、産業・観光・地域ビジネスを両立させる社会経済システムモデルを構築し、持続可能な地域経済の形成を目指す。 ・国立環境研究所琵琶湖分室と連携し、自然資本や生態系サービスの可視化を行い、科学的根拠に基づく保全・再生活動と経済活動を連動させることで、環境改善と地域の持続的成長が同時に進展する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 琵琶湖を中心とした滋賀県の自然資本を保全対象にとどめず、地域経済を動かす基盤・投資判断の対象として位置付け、自然資本の可視化と保全・再生が仕事・所得・企業投資につながる仕組みを構築・検証する。科学的知見に基づき自然資本の状態や管理効果を地域レベルで定量的に示し、モデル地域で実証を行うとともに、「しがネイチャーポジティブネットワーク」を通じて多様なステークホルダーと横展開を図る。さらに、データ駆動型で取組を改善し、担い手・資金・事業が継続的に生み出される地方創生モデルの確立を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・科学的根拠に基づくネイチャーポジティブ推進事業 20,800千円 ・ネイチャーポジティブ経営の実装を後押するネットワークの運営支援（委託料）5,000千円 ・自然資本を守るために活かすことを目的とした製品・サービスの開発支援（補助金）5,000千円						
主なKPI	①滋賀県の自然資本を活用した事業による経済波及効果（+4.6億円） ②自然資本を活用した事業による関係人口の増加数（+450人） ③しがネイチャーポジティブネットワークの企業・団体数（+65者） ④自然資本の見える化の増加数（+18件）					URL ※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)

事業概要：しがのビジネス海外展開プロジェクト事業

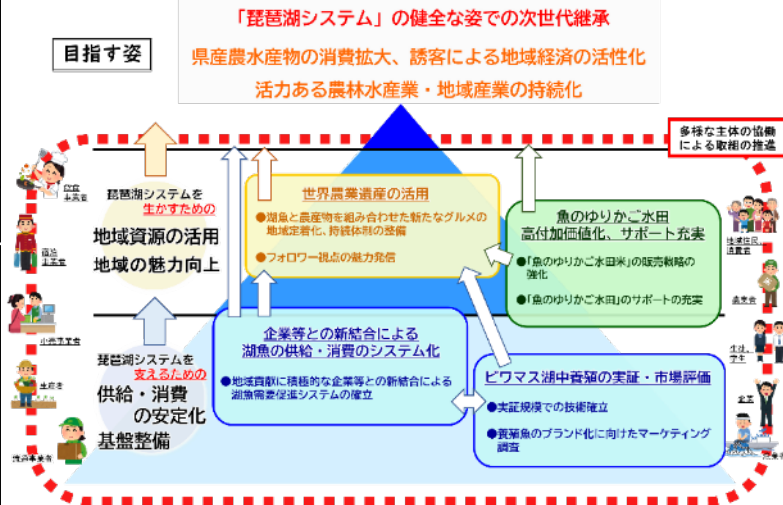
新規

申請者	滋賀県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	173,950千円 (53,698千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・県内企業の海外展開を促進するため、海外企業・支援機関・要人等との接点を強化し、滋賀ブランドの国際的な認知度向上を図る。 ・グローバルサウス諸国等における現地調査、商談機会の創出、共創プロジェクトの組成を支援し、県内企業の販路開拓につなげる。 ・国際交流や相互理解の促進を通じて、外国人材に選ばれる地域づくりと海外市場での持続的なビジネス展開を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 県内企業の海外展開を後押しするため、海外企業、海外要人、海外支援機関等との交流機会を創出し、県内企業の技術・製品や滋賀ブランドの認知度向上を図る。グローバルサウス諸国等については、現地調査、海外バイヤーとの商談機会、共創プロジェクトの組成支援を行い、県内企業の受注機会や協業案件の獲得につなげる。併せて、国際交流や相互理解の取組を通じ、外国人材に選ばれる地域づくりを進める。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・海外企業や海外要人・海外支援機関とのビジネス交流の場づくりおよび国際会議等の場を利用したPR（委託料）7,000千円 ・グローバルサウス諸国を中心とした世界での経済交流の調整および現地調査、共創プロジェクト組成（委託料）18,500千円 ・県内外国人との文化およびビジネスに関する交流イベントやその支援の実施（委託料・補助金）4,859千円 ・企業の海外市場開拓の取組への補助（補助金）14,000千円 ・分野特化型の海外バイヤーとのビジネスマッチングイベントの実施（補助金）5,500千円 ・グローバル人材の採用および育成支援（委託料）3,839千円						
主なKPI	①県内企業の輸出額の増加（+223億円） ②バイヤーとの商談成功件数（+82件） ③海外で新たに販路開拓に取り組んだ数（+40社） ④技術・人文知識・国際業務分野の在留資格を持つ外国人材数（+1,510名） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)

海外からの企業視察の様子

事業概要：世界農業遺産「琵琶湖システム」次世代継承プロジェクト

新規

申請者	滋賀県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	151,757千円 (50,109千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・世界農業遺産「琵琶湖システム」の認知度向上と次世代への継承を図り、県産農水産物の消費拡大につなげる。 ・びわ湖魚グルメの普及、湖魚の供給・消費体制の構築、ビワマス養殖の実証等により、新たな食文化の定着を促進する。 ・魚のゆりかご水田米など環境こだわり農産物の価値を発信し、農業・水産業の所得向上と地域経済の活性化を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 世界農業遺産「琵琶湖システム」を次世代へ継承するため、県産農水産物の魅力を消費者目線で発信し、食べる機会を増やす取組を実施する。びわ湖魚グルメの普及、企業等と連携した湖魚の供給・消費システム構築、ビワマス湖中養殖の実証、魚のゆりかご水田米のPR等を行い、琵琶湖と共生する農業・水産業の価値を高める。これにより、農業・水産業の生産体制の安定化と地域の食文化の定着を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・「びわ湖魚グルメ」地域定着・持続化事業（委託料）11,400千円 ・地域企業等との新結合による湖魚需要システム化推進事業(委託料) 5,000千円 ・湖魚供給・消費システム安定化事業（補助金）6,480千円 ・自然とつながる湖のしごと実践支援事業（委託料）14,950千円 ・ビワマス湖中養殖技術確立事業（委託料）2,500千円 ・養殖ビワマス市場調査事業（委託料）2,500千円 ・「魚のゆりかご水田米」販売戦略強化事業（委託料）1,744千円						
主なKPI	①農業・水産業産出額（+40.2億円） ②びわ湖魚グルメメニュー販売食数（+3万食） ③琵琶湖八珍マイスター登録店（+12件） ④湖中養殖によるビワマス生産量（+3トン） ⑤魚のゆりかご水田新規取組地区数（+4地区）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)

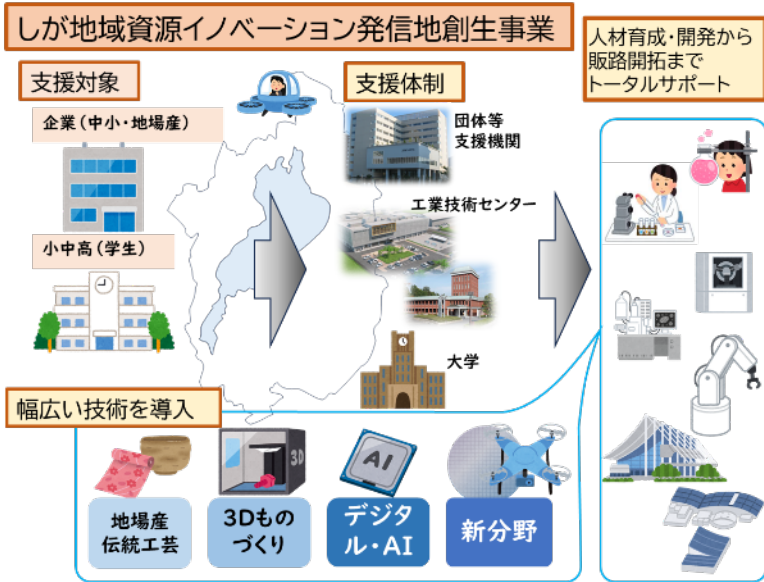
事業概要：つながる、つづく、しがの農業プロジェクト

新規

申請者	滋賀県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	205,806千円 (63,326千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・担い手不足や気候変動等に対応するため、農業者・産地・流通・消費の各段階における「作る力」「届ける力」「伝える力」を強化する。 ・地域農業推進会議の設置、スマート農業・気候変動対策、地産地消や県産食材の販路拡大を一体的に進める。 ・持続可能な地域農業の実現、県産農畜水産物の消費拡大、農業産出額の向上につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 持続可能な地域農業を実現するため、「作る力」「届ける力」「伝える力」の向上に向けた取組を一体的に実施する。 「作る力」の向上では、地域農業の維持や若者の就農を促進する地域の体制構築、高温耐性品種の導入や栽培技術の励行、近江牛の食味向上に取り組む。また、「届ける力」の向上では、地域の食を確実に地域の人々に届ける体制づくりや、県育成イチゴ「みおしずく」をモデルとした流通体制の見直し・整備に取り組む。加えて、「伝える力」の向上では、生産者、食品関連事業者の新たな協働による県産農畜水産物を利活用する取組の活性化やオーガニック米「きらみずき」を柱にしたオーガニック農業の魅力発信に取り組む。 これにより、担い手確保、産地力向上、県産農畜水産物の消費拡大を図る。					「県産食材の魅力をみんなで伝える力」向上対策 「作る人の力」向上対策 「作る技術力」向上対策 「新しい味力(みりよく)を作る力」向上対策 「オーガニック農業の価値を伝える力」向上対策 「地域の食を、地域の人々に届ける力」向上対策 「産地ブランドの確立に向けた、届ける力」向上対策 「伝える力」向上プログラム 「作る力」向上プログラム 「届ける力」向上プログラム 多様な人々が、つながり、持続可能な取組となる 魅力度UP 流通力UP 発信力UP 生産力UP 心の豊かさと経済的な豊かさが育まれる滋賀県農業を目指す	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 1 「作る力」の向上プログラム 21,326千円 持続可能な地域農業の実現に向けた取組支援（補助金）11,000千円 他 2 「届ける力」の向上プログラム 24,000千円 県域での市場出荷に向けた流通体制見直し等の取組支援（補助金）10,000千円 他 3 「伝える力」の向上プログラム 18,000千円 新たな協働による取組活性化に向けた伴走支援（委託料）13,000千円 他						
主なKPI	①農業産出額(+36億円) ②西日本における滋賀県産米の一等米比率の順位（+12ランクアップ） ③1億円以上の売上を維持または目指す産地または経営体数（+6件） ④県産農畜水産物を利活用し消費拡大を進める事業者数（+150者）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunej/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)

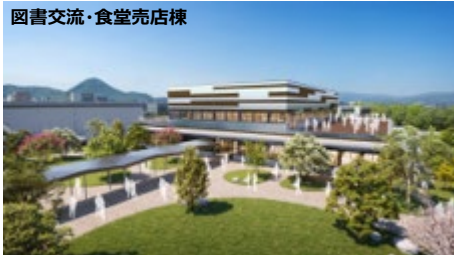
事業概要：しが地域資源イノベーション発信地創生事業事業

新規

申請者	滋賀県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	740,479千円 (195,549千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・スタートアップなど多様な成長産業とそれを支える理系若年層の創出、イノベーションを進める環境の不足などの課題を解決する。 ・伝統工芸・地場産業から最新テック系企業まで、あらゆる英知をデジタル・AI・3Dなど先端技術を用いて高度化・効率化を進める。 ・教育の場から工場の現場までを対象し、幅広い分野での活性化につなげ、滋賀県をイノベーションの聖地へと導く。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 「ものづくり県」として、開業率の低迷、若年層の県外流出、イノベーション環境の不足という課題を解決するため、①起業の伴走支援、連携の場、拠点整備事業と連動したイノベーション環境整備、②地場産業や伝統工芸とデジタル技術との融合による製品開発やリブランディング、③AI・デジタル技術によるマッチングやブランド力向上支援、販路拡大、高度技術の社会実装、④小中高生からのSTEAM教育や企業・大学と連携した先端技術の浸透、⑤高度な評価・試作設備を整備し、企業が活用するオープンラボ提供により人材育成・開発・販路開拓のトータルサポートを実施する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ①スタートアップ創出環境生成プラン（委託・補助金） 45,000千円 ②地域産業新結合促進プラン（委託・補助金等） 57,918千円 ③中小企業新分野販売力強化プラン（委託・補助金等） 29,920千円 ④学生期からの起業家育成プラン（委託・謝金等） 20,416千円 ○拠点整備事業 ⑤スタートアップ等高度技術支援設備整備事業 42,295千円						
主なKPI	①製造業の付加価値額の対前年度増加率（+1.8%） ②中小企業の商談成約件数（+469件） ③新たな商品・サービスの開発件数（+145件） ④人材育成の取組に参加した人数（+112,100人）					URL	https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)

事業概要：競争力のある力強い産業創出と地域の持続的発展のための
高度専門人材育成・交流拠点整備事業

新規

申請者	滋賀県						初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	803,343千円 (182,870千円)
事業類型	ソフト 事業		拠点整備 事業	✓	インフラ 整備事業			
目的・効果	・県内の製造業や建設業を支える工学系の高度専門人材の育成拠点として、令和10年4月設置・開校予定の県立高等専門学校に図書・交流拠点施設を整備する。 ・ホール、ラーニングコモンズ、創作工房、共同研究室等を設け、学生、教員、企業関係者、大学関係者、地域住民等が交流し、地域課題の解決、共同研究、試作、成果発表等に取り組む連携・共創環境を形成する。 ・企業人材のリスキリング、共同研究、小・中学生向け公開講座等を通じて、県内産業の生産性向上、新産業創出、理工系人材の裾野拡大につなげる。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 令和10年4月設置・開校予定の滋賀県立高等専門学校に、様々な主体による連携・共創の拠点として、図書・交流拠点施設を整備する。具体的には、図書交流・食堂売店棟の1階に、ホール、ラーニングコモンズ、創作工房、共同研究室、グループワークルーム、多目的室、スタジオを整備し、学生、教員、企業関係者、大学関係者、地域住民等が討議、試作、共同研究、成果発表等を行う場とする。これにより、本県の製造業、建設業を支える高度専門人材の育成、共同研究・事業化研究、企業人材のリスキリング、理工系人材の裾野拡大を図る。						 学生寮 図書交流・食堂売店棟 (図書・交流拠点施設) 校舎棟 実習工場・実験室棟 体育館  図書交流・食堂売店棟	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・滋賀県立高等専門学校 図書・交流拠点施設整備 182,870千円 図書交流・食堂売店棟の1階に、ホール、ラーニングコモンズ、創作工房、共同研究室、グループワークルーム等を整備する。 ※本事業で整備する図書・交流拠点施設は、学生、教員が利用するととどまらず、企業関係者など様々な主体が交流し、連携・共創を行う施設である。							
主なKPI	①20歳～24歳製造業正規職員・従業員数 (+1,614人) ②製造業売上増加額 (+7.1億円) ③公開講座等参加人数 (+600人) ④共同研究実施件数 (+2件)						URL	※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/320223/351176.html (令和8年7月公表予定)

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

申請者	滋賀県大津市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	313,465千円 (313,165千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	科学館プラネタリウムをリニューアルし、最新式のデジタル投影機器を導入することで星空、宇宙の投影の他、さまざまなプラネタリウム体験を乳幼児から幅広い世代に提供するとともに、大津市の魅力を発信し、大津市への愛着を育み、交流人口の拡大、定着人口の増加を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 大津市科学館プラネタリウムについて、デジタル式プラネタリウム投影機の導入、ドームスクリーン・音響・照明・座席・エントランス等、機能を更新する。最新設備により、星空や宇宙の表現に加え、地域映像、STEAM教育、外部施設との双方向通信等に対応できる空間を整備する。これにより、プラネタリウム観覧者数の増加、大津市への愛着形成、子育て・学習環境の充実を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建築物整備 ドームスクリーンの更新ほか 145,281千円 ・設備整備 プラネタリウムシステムの整備 154,000千円 ・効果促進事業 番組制作費 10,584千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①社会増加数（+7,863人） ②大津市に住みたいと思う人の割合（+1.20%） ③大津市が安心して子どもを産み、育てることができる環境だと思ふ人の割合（+1.20%） ④プラネタリウム観覧者数（1日あたり）（+56人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年9月公表予定

申請者	滋賀県近江八幡市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,102,725千円 (0千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・アクティ近江八幡を改修し、起業希望者や起業初期の事業者が相談・交流・実践できる起業支援拠点として再整備する。 ・施設の機能向上、コワーキング・交流機能の整備、起業支援プログラムとの連携により、起業のハードルを下げる。 ・商工団体等と連携した伴走支援により、起業家数の増加と中心市街地の活性化につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本市で起業を希望・準備する人や起業初期の人を対象に支援する「起業支援施設」を整備します。支援を希望する人が必要とする相談・交流・コワーキング等の機能を備えた施設として、近江八幡市勤労者福祉センター(アクティ近江八幡)の用途や機能を変更して性能を向上させる改修等工事を行いリニューアルします。また、起業支援施設を拠点とした起業による地域経済活性化を目指し、地域創生を支える持続可能な施設運営計画を策定します。					近江八幡市勤労者福祉センター (アクティ近江八幡) 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ※R8年度事業は、R9年度へ延期のため、事業費計上なし						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①商工団体が把握する起業家数（+17件） ②支援事業を通じた起業家数（+11件） ③起業支援施設の延利用者数（+1,400人／月平均）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.omihachiman.lg.jp/soshiki/shoko/sangyou/kigyousougyou/31216.html

事業概要：近江八幡市の歴史文化資産のユニークベニューによる賑わい創出事業

新規

申請者	滋賀県近江八幡市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	165,926千円 (21,831千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	人口減少が進行する中において、交流人口・関係人口の拡大を図り、地域のにぎわいと持続性を確保することを目的とする。観光客数の増加や来訪頻度の向上により、地域への関心と継続的な関与を促進するとともに、観光消費単価の向上や滞在時間の延長を通じて、観光消費額の拡大を目指す。また、地域の文化・歴史資源を活用した事業展開により、来場者数や参加者数の増加を図り、地域資源の価値向上と発信力を強化する。これらの取組を通じて、文化・観光分野の担い手育成や地域内経済循環を促し、将来的な民間投資や外部連携につながる基盤形成を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 近江商人の庭園「寿楽園」を整備し、茶の湯や和装、食などの文化体験コンテンツの提供を行う。また市内に点在する歴史文化資産の磨き上げのために、ユニークベニューとして、地域の歴史的・文化的資源や象徴的な場所を会場とする音楽イベントの開催など、国内外で活躍する一流アーティストによる質の高い芸術鑑賞の機会を提供する。観光客の来訪促進や滞在時間の延長を通じて交流人口の拡大と観光消費の増加を図るとともに、音楽を通じた地域の魅力発信と持続的な文化振興を目指す。					MUSIC FESTIVAL BIWAKO・OMI-HACHIMANイメージ  (上) 寿楽園 (左) 倉敷音楽祭	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・歴史文化資産と音楽を融合した音楽祭の開催（報償費・委託料等）19,831千円 （仮）MUSIC FESTIVAL BIWAKO・OMI-HACHIMANを開催し、歴史文化資産を活用した新たな誘客コンテンツを創出する。 ・歴史文化資産の磨き上げのための情報発信・回遊促進（印刷製本費） 2,000千円 重要文化的景観や市内近代建築等のパンフレットを作成し、歴史文化資産の回遊促進を図る。						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額（日帰り）（+1,710円） ②観光入り込み客数（+50万人） ③市内宿泊客数（+48,000人） ④（仮）MUSIC FESTIVAL BIWAKO・OMI-HACHIMAN来場者数（+4,500人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	(交付金の具体的使途・実施体制) 令和8年8月公表予定 (効果検証) 令和9年8月公表予定

申請者	滋賀県草津市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	449,433千円 (274,753千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・山田学区の地域活動、交流、コミュニティビジネスの拠点として、山田まちづくりセンターを新築整備する。 ・集会・学習・地域交流に必要な諸室、駐車場、外構等を整備し、誰もが利用しやすい地域拠点を形成する。 ・センター利用者の増加、地域住民の交流促進、地域課題解決に向けた主体的なまちづくりにつなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 山田まちづくりセンターを、山田学区の地域活動と交流の拠点として新築整備する。鉄骨造2階建ての施設本体、電気・機械設備、駐車場等を整備し、会議、学習、地域交流、コミュニティビジネス等に活用できる場を確保する。これにより、センター利用者の増加、住民主体のまちづくり、地域コミュニティの維持・活性化を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・山田まちづくりセンター新築工事 244,916千円 鉄骨造2階建ての施設本体、電気工事、機械工事を実施し、地域活動・交流の拠点を整備する。 ・山田まちづくりセンター駐車場整備 25,397千円 来館者用駐車スペースを確保するため、外構工事により駐車場を整備する。 ・備品整備 4,440千円 施設運営に必要な備品を整備する。						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①山田学区の人口（+22人） ②コミュニティビジネスによる収入増（+260千円） ③山田まちづくりセンターの利用者数（+1,022人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://kusatsu-yamada.jp/ （効果検証） https://www.city.kusatsu.shiga.jp/s-hisei/keikaku/sousei/kikaku12016101118173.html

申請者	滋賀県草津市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	484,172千円 (306,332千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・矢倉学区の地域活動と住民交流の核となる、矢倉まちづくりセンターを新築整備する。 ・集会・学習・地域交流に必要な施設、駐車場、里道・水路等の外構を整備し、安全で利用しやすい拠点を形成する。 ・矢倉学区を代表する地域資源の活用や立命館大学などの協働によりセンター利用者やイベント参加者の増加を測り、地域コミュニティの活性化と人口維持につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 矢倉まちづくりセンターを新築し、矢倉学区の交流、学習、地域活動の拠点機能を強化する。鉄骨造2階建ての施設本体、電気・機械設備、駐車場、里道・水路等の外構を整備し、安全で利用しやすい施設とする。これにより、センター利用者やイベント参加者の増加、地域コミュニティの活性化、人口維持に資する地域づくりを進める。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・矢倉まちづくりセンター新築工事 253,150千円 鉄骨造2階建ての施設本体、電気工事、機械工事を実施し、地域活動・交流の拠点を整備する。 ・矢倉まちづくりセンター外構工事 48,742千円 駐車場整備、里道・水路改修等を行い、利用者が安全に来館できる環境を整える。 ・備品整備 4,440千円 施設運営に必要な備品を整備する。						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①矢倉学区の人口（+40人） ②矢倉まちづくりセンターの利用者数（+1,700人） ③矢倉まちづくりセンターにおけるイベント参加者数（+280人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） http://www.machikyuu.jp/yagura/com/ （効果検証） https://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/keikaku/sousei/kikaku12016101118173.html

事業概要：人と企業が交わる、魅力と活力のあふれるまち推進プロジェクト

～スタートアップを核とした地域版イノベーション・エコシステムの構築～

新規

申請者	滋賀県草津市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	51,936千円 (17,312千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・（仮称）イノベーション集積拠点を創出し、スタートアップと地域企業によるオープンイノベーションの構築による地場産業の付加価値向上を目指す。 ・高度人材の確保や業務のDX化を推進し、新たなビジネスモデルの創出を支援し、さらなる地域経済の拡大を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 スタートアップ・地域企業の研究開発・支援者・市民・学生など多様な主体の交流・集積による新たな価値（イノベーション）を生み出すオープンイノベーション拠点の創出に向けて、支援の幅を広く設定した事業を実施することで、「若者の定着（若者に選ばれるまち）」と「スタートアップに選ばれるまち」につながり、本市の強みを活かした滋賀県南部地域を牽引する「地域版イノベーション・エコシステム」の構築に向けた取組を実施する。					 	
	【R8年度事業 経費内訳】						
	○ソフト事業 ・起業人材の育成・発掘やスタートアップと地域企業とのマッチング強化を図る交流イベントを支援（補助金）3,250千円 ・事業性検証機会の創出および社会課題の解決に資する実証実験を支援（補助金）5,062千円 ・人材確保、DX環境整備により企業成長を支援（補助金）9,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①法人市民税納税義務者数（＋330法人） ②市内（GIC・BKCインキュベータ）に活動拠点を置くスタートアップ等（起業予定を含む）の者数（＋75者） ③市が関与して実施した実証実験等の件数（＋15件） ④マッチングイベントの参加者数（＋180者）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.kusatsu.shiga.jp/s-hisei/keikaku/sousei/kikaku12016101118173.html

事業概要： 守山を実証実験のフィールドに！ 起業家の集まるまちづくり実現プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	滋賀県守山市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	22,000千円（7,000千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	移住促進・地方創生人材の確保・育成等の人材分野
目的・効果	・地域内の雇用や魅力的なしごとの創出を図る。 ・多様化する社会課題、市内のDX・GX推進や人口が増加するまちを背景とする地域課題の解決を図る。 ・地域内のイノベーション人材を発掘し育成する。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ○本市を実証のフィールドとして活用するための事業（実証実験）の実施およびこうしたフィールドを求める企業等との関係構築のための起業家交流イベントの実施。 ○地域支援機関とスタートアップ等との協業による事業および新たな価値を創造する地方創生人材を発掘・育成する事業の企画・実施および取組の総括・効果検証を行う。		 Assemble! Challengers! 起業家の集まるまち 守山 【起業家の集まるまちのロゴデザイン・フレームズ】
	【R8年度事業 経費内訳】 ・地域課題解決プロジェクト創出事業（委託料）：2,690千円 ・官民連携プロジェクトサポート事業（補助金）1,000千円 ・地域支援機関、地元企業とスタートアップ等との協業による事業の企画・実施および取組の総括・効果検証（委託料）：2,000千円 ・地域内のイノベーション人材発掘・育成事業の企画・実施および取組の総括・効果検証（委託料）：1,310千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①UIJ ターンによる起業・創業件数（15件） ②本事業を通じたプロジェクトの本市ホームページへの掲載件数（15件） ③関係人口創出数（300人（社））		URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL https://www.city.moriyama.lg.jp/sangyo_business/kigyoka/index.html

申請者	滋賀県守山市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	63,000千円 (13,000千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	湖岸のポテンシャルを活かし、湖岸エリアを一体的に活性化するため、現代のニーズに合った施設運営に向けて美崎公園内のキャンプサイトを自然共生型キャンプ拠点として整備し、リニューアルを行う。これにより、地域資源を活用した官民連携の活性化を進め、地域の魅力を高めることで、交流人口および関係人口を拡大し、地域内の消費額（観光消費額）の拡大を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 (1) キャンプサイトリニューアル ・区画サイトの一部をフリーサイト化し、多様な利用スタイルに対応。 ・バリアフリーへの対応や電源付サイトを導入し、幅広い世代の利用を可能にする。 (2) 研修棟のリニューアル ・環境学習等に利用されている美崎公園内の研修棟を子育て世帯等が利用しやすい施設へとリニューアルを行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 キャンプサイトをリニューアルし、丘陵地のフリーサイト整備、既存サイトの区画拡張等を行う。 キャンプサイトリニューアル工事 ・掘削・整地・砕石舗装 5,000千円 ・電気工事 8,000千円 【合計】 13,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①湖岸エリア年間の観光消費額（+1,410百万円） ②湖岸エリア主要観光・商業施設における入込客数（+294,900人） ③年間のキャンプ場利用者数（+1,000人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年3月公表予定

事業概要：若者定住のためのモノづくり企業活躍推進事業

継続

申請者	滋賀県甲賀市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	54,545千円 (17,665千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・甲賀市内企業の人材不足に対応し、若者の市内就職・創業・定住を促進する。 ・合同就職面接会、オープンファクトリー、地場産業体験、若者創業支援、副業人材活用支援を実施する。 ・市内企業の認知度向上、若者と企業のマッチング、地場産業の担い手確保、地域経済の活性化につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 甲賀市内企業の人材不足と若者の市外流出に対応するため、就職、職業体験、創業、外部人材活用を組み合わせた取組を実施する。甲賀JOBフェアの開催、地域一体型オープンファクトリー、地場産業の職業体験・インターンシップ、若者創業支援、副業プロ人材のマッチング、若者ラウンドテーブルを行う。これにより、市内企業の認知度向上、若者の定住、地場産業の担い手確保を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・甲賀JOBフェア開催事業（事業費 5,000千円） ・地域一体型オープンファクトリー開催支援補助事業（事業費 500千円） ・地場産業次世代人材創出事業（事業費 1,400千円） ・若者の創業支援事業（事業費 2,000千円） ・副業プロ人材活用支援事業（事業費 7,315千円） ・若者ラウンドテーブルの運営事業（事業費 1,450千円）						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①経済活動市民総生産（+350.4億円） ②法人市民税納税者数（+60人） ③市民納税者数（+900人） ④粗付加価値額（+186.6億円） ⑤就職面接会内定者数（+6件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.koka.lg.jp/16565.htm

事業概要：道の駅あいの土山と茶生産振興対策事業

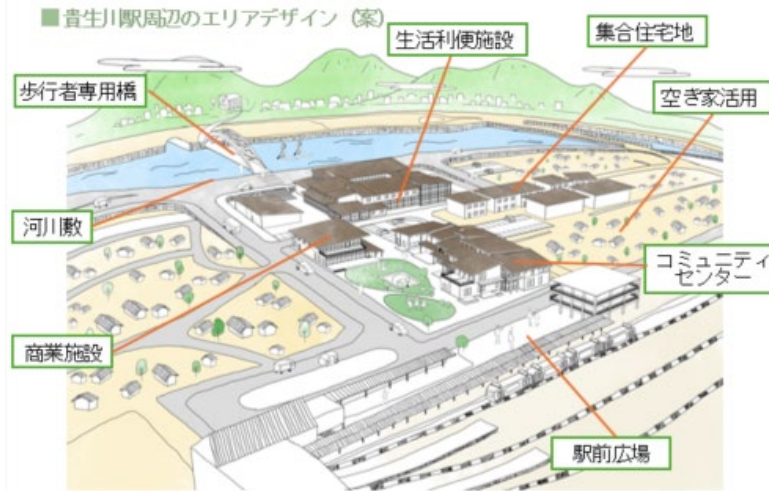
継続

申請者	滋賀県甲賀市						初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	129,600千円 (43,100千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	・リニューアルした道の駅を拠点に、甲賀茶をはじめとする地域資源の発信、販売、交流機能を高め、来訪者の滞在時間と消費額の向上を図る。 ・生産環境の整備や販路拡大、情報発信を一体的に進めることで、茶生産の安定化と付加価値向上を図り、将来にわたる産地の維持、発展につなげる。 ・道の駅を起点とした周遊促進やイベント展開等により、市内周遊性を高め、観光消費の地域内循環を促進する。 ・これまでの取組を検証、見直ししながら、より実効性の高い事業内容へと更新することで、国の交付金事業としての成果最大化を図る。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、道の駅あいの土山を中核拠点として、甲賀茶をはじめとする地域資源を活用し、観光振興と茶生産振興を一体的に進める継続事業である。令和7年度から令和9年度までの3年間を通じて、これまでの取組の成果と課題を踏まえながら、事業内容の見直しと改善を図る。 具体的には、リニューアルした道の駅の機能を活用し、甲賀茶の情報発信や販売促進、体験機会の創出を進めるとともに、生産環境の整備やブランド力向上に向けた取組を継続する。また、道の駅を起点とした周遊促進やイベント展開等により、市内各地への来訪を促し、交流人口の拡大と観光消費の増加につなげる。 本計画では、効果の高い施策に重点化しながら、事業手法の高度化と継続的な検証を行うことで、持続可能な事業運営モデルの確立を目指す。観光と農業の連携による波及効果を創出し、地域経済の活性化と甲賀茶産地の将来にわたる発展に寄与する事業として推進する。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 道の駅あいの土山組織強化事業委託料、補助金等（合計）：13,700千円 甲賀の茶ブランド化事業負担金、補助金等（合計）：10,100千円 有機栽培促進事業補助金（合計）：8,300千円 茶生産機械等購入補助事業補助金（合計）：11,000千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①市町村別農業産出額（市内の農業産出額）（+15.300千円） ②茶の輸出用生産量（+30トン） ③市内の新規就農者数（+9人） ④道の駅あいの土山の直売農作物の販売額（+3,000千円）						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.koka.lg.jp/16565.htm

事業概要：外国人市民の定住のための多文化共生推進事業

継続

申請者	滋賀県甲賀市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	31,919千円 (5,935千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	「ものづくり企業」「福祉事業所」における人材不足が顕在化するなか、地域産業を支える人材をさらに呼び込むとともに、単身、短期労働者、いつかは母国に帰るゲストとして捉えるのではなく、家族とともに地域で暮らす市民として定住し続けていただくことで、域内経済の活性化と企業の生産性の向上を実現する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 外国人市民を単身、短期の労働力として捉えるのではなく、いつまでも地域に住み続けていただくことを目的として、県内初の甲賀市多文化共生センターを設置し、令和7年度の本格運用開始に向けて準備を進めている。本センターでは、外国人相談、日本語ゼロ初級者を対象とした日本語教室、外国にルーツを持つ子どもの学習支援を中心に取り組みを進める予定であり、外国人相談窓口の運営に係る経費は、行政の責務として、市からの委託料を想定するとともに、日本語教室や外国人材の紹介、外国人材の労働環境整備に向けたメンター派遣、外国人材を雇用している企業へのコンサルティングについて、雇用主である企業に一定の費用負担により収入を得る。また、外国人労働者を雇用する企業が、外国人の生活支援を主として担う、国際交流協会の法人会員となることで収入増につながり、自主財源による持続可能な取り組みとなる。外国人市民が一時的な労働者ではなく、地域の担い手のひとりであることを理解することで、外国人市民の自治会への参加、自治会費などの増収につながり、自治に係る経費の圧縮に結び付けるとともに、外国人市民の市内企業への就業や定住者となることで、市民の増加及び市内事業者の収益増加が図れ、結果として税収増による自主財源の増加につながるることとなる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 1. 生活支援 4,340千円 多言語対応の情報提供、外国人相談窓口の運営、専門家による定期相談会、生活オリエンテーション 2. 定住促進、雇用支援 1,250千円 地元不動産業者との連携、外国人の雇用支援、衣食住に関する支援 3. コミュニティ支援 4,600千円 異文化交流イベントの開催、日本語教室の充実、放課後学習支援 4. 外国人材雇用ネットワーク運営事業 600千円 産官学金プラットフォームの構築						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①市内における外国人人口 (+1,332人) ②相談窓口における外国人相談者数 (+3,695人) ③日本語教室における学習者数 (+125人) ④地域における多文化共生事業の実施数 (+3か所)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.kok-a-tabunka.jp

申請者	滋賀県甲賀市					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R11年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,408,895千円 (119,702千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	市民の生活の質の向上と地域経済・地域社会の活性化を目的に、パブリックマインドを持つ民間事業者と協力して大阪ー名古屋間の交通結節点である立地特性や歴史・文化・アート・食といった豊かな地域資源を活かした「持続可能な公民連携によるまちづくり」を推進し、民間は豊かなライフスタイルの実現に寄与する事業を計画実行し、行政はそれを公共インフラ整備や住民合意形成の側面から支援して魅力的な「まちの中心」を創ることで「若者・子育て世代に選ばれるまち」とし、市内全域にも波及効果を及ぼしていく。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 貴生川駅周辺を、若者・子育て世帯に選ばれる都市拠点として再生するため、公民連携によるまちづくりを推進する。都市空間デザイン支援、公民連携サポート、空き家・空き店舗等を活用したリノベーションまちづくり、コミュニティセンターの実施設計等を行う。これにより、駅周辺の賑わい、安全性、回遊性を高め、定住意向や駅利用者数、イベント回数の増加につなげる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・大学連携での都市空間デザインの支援（委託料）2,200千円 ・公民連携の専門家による事業構築の伴走支援（委託料）18,922千円 ・公民連携の研修による事業実施人材の育成（負担金）880千円 ・専門家による地域資源発掘活動の伴走支援（委託料）2,700千円 ○インフラ整備事業 ・北口ロータリー改修工事 整備費 80,000千円 ・駅自由通路の改修工事 設計費 15,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①甲賀市の人口減少数の縮小（－6,525人） ②若者（30歳代以下）の定住意向（＋24.90%） ③貴生川駅の乗降客数（＋1,767人） ④民間による駅周辺でのイベント回数（＋40回）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.koka.lg.jp/22738.htm

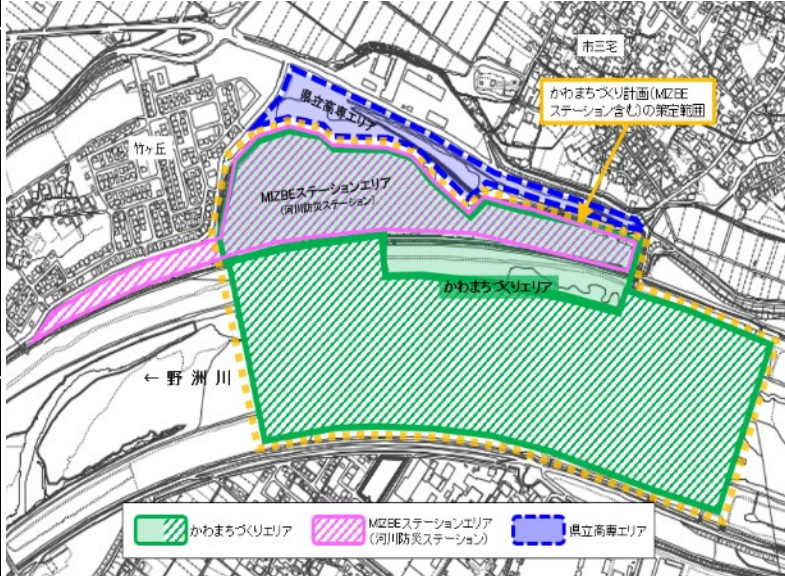
事業概要：地域資源観光活用と新しい取り組みによる「甲賀へ行こうか」プロジェクト

新規

申請者	滋賀県甲賀市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	454,326千円 (125,092千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・世界的に高い認知度と影響力を有するメジャーコンテンツとの連携を起点に、甲賀市の忍者文化等の地域資源を国内外に発信し、観光誘客の拡大を図る。 ・観光拠点の機能強化や受入環境整備、体験・情報発信を一体的に進め、来訪者の満足度向上と地域内回遊を促進する。 ・一過性に終わらない持続的な観光誘客モデルを構築し、人流・消費・関係人口の拡大につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、世界的に高い認知度と影響力を有する世界的メジャーコンテンツとの連携を中核に、甲賀市の忍者文化をはじめとする多様な地域資源を国内外に発信し、観光誘客の拡大と地域の魅力向上を図るものである。初年度は、世界的メジャーコンテンツとの連携事業を円滑に展開するため、観光拠点の機能強化や受入環境の整備、地域資源の再整理・再編集等を行い、事業全体の基盤づくりを進める。次年度は、本事業の中核として、世界的メジャーコンテンツとの連携施策を通じた集中的な情報発信や観光施策を実施し、国内外からの誘客を図る。最終年度は、これまでの取組で得られた効果やノウハウを地域に定着させるとともに、継続的な観光誘客につながる仕組みを構築し、一過性に終わらない持続可能な観光モデルの確立を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 世界的メジャーコンテンツ連携を見据えた地域観光・受入体制の構築支援補助金（合計）：69,045千円 広域連携による情報発信・文化振興の推進負担金（合計）：4,500千円 世界的メジャーコンテンツ連携に向けた観光コンテンツ造成・情報発信推進委託料（合計）：23,057千円 観光施策高度化に向けた調査・検討・運営支援その他（合計）：10,490千円 ○拠点整備事業 施設機能強化工事 甲賀流リアル忍者館 観光・交流拠点整備：18,000千円						
主なKPI	①観光入込客数の増加（+1,912,289人） ②外国人観光者数の増加（+26,559人） ③市内観光消費額の増加（+9,570百万円） ④観光拠点施設来館者数の増加（+48,553人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.koka.lg.jp/16565.htm

事業概要：野洲川MIZBEステーション整備事業

継続

申請者	滋賀県野洲市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,483,800千円 (105,900千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・野洲川MIZBEステーションを河川空間とまちをつなぐ交流・観光・憩いの拠点として整備し、隣接する滋賀県立高等専門学校との連携により人材の育成支援促進を図る。 ・供用開始前から賑わい創出イベントを実施するとともに、地域交流センター、レクリエーション施設、体験型デジタルコンテンツ等の整備を進める。 ・市内外からの来訪者を呼び込み、観光入込客数と拠点施設利用者数の増加、地域交流の活性化につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 野洲川MIZBEステーションを、河川空間を活かした交流・観光・憩いの拠点として整備する。供用開始前から賑わい創出イベントを開催し、市内外からの参加者を呼び込むとともに、地域交流センター、レクリエーション施設、体験型デジタルコンテンツ等の実施設計・整備を進める。これにより、供用開始後の利用者確保、観光入込客数の増加、地域交流の活性化を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・MIZBEステーション整備に向けた賑わい創出イベント（委託料）9,900千円 供用開始前から継続的にイベントを開催し、市内外から参加者や利用者呼び込む。 ○拠点整備事業 ・野洲川MIZBEステーション整備に向けた実施設計業務 96,000千円 カフェ機能、物販機能、貸室機能等を備えた地域交流センターの実施設計を行う。						
主なKPI	①野洲市の人口（▲738人） ②地域への年間観光入込客（+25,400人） ③施設の利用者（+48,000人） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL	（交付金の具体的使途） https://www.city.yasu.lg.jp/soshiki/mizbe/mizbe/1722842328468.html （効果検証） 令和8年9月公表予定

事業概要：多様な人財活躍による「まち・ひと・しごとに笑顔があふれるプロジェクト」
～市民一人ひとりが希望を持って暮らせるライフスタイルを実現するために～

新規

申請者	滋賀県湖南市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	93,736千円 (30,925千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	①『魅力的な職場環境づくり』を目的に、立地優位性やデジタル技術を生かした魅力的な企業の誘致や起業、事業領域の拡大支援による産業の活性化につなげます。 ②『新しいひとの流れづくり』を目的に、多様な形の人や地域の支えあいを推進し、若い世代の移住・定住や地元への定着を促進するとともに、地域資源を生かした魅力の向上や対外的な認知度の向上によるブランドの確立につなげます。 ③『子どもをまんなかに、若者に向けた取組の推進』を目的に、結婚から妊娠、出産・子育てまで切れ目のない支援を行い、女性が社会参画しやすい環境づくりと併せて、子どもや若者が未来や地域への希望を抱き、いきいきと育つまちづくりにつなげます。 ④『だれもが活躍できる社会づくり』を目的に、だれもが居場所と役割を持ち活躍できる地域社会づくりと併せて、産学官金労言士が連携し、脱炭素ビジネスなど地域経済の活性化やイノベーション創出に取り組み、だれもが安全・安心で快適に暮らすことができる持続可能なまちづくりにつなげます。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ①地場産業におけるものづくりの強みを生かし、産業力の強化を通じて、魅力的な企業・事業の誘致・展開、デジタル技術や優れた人財の知見を活用した地場産業の活性化に取り組みます。 ②地場産業をはじめとする多様な主体と連携し、地域まちづくりの担い手の確保や多様な市民が参画する仕組みづくりを通じて、地域資源を生かした魅力ある地域づくりによる交流人口の増加、関係人口の創出に取り組みます。 ③地場産業（地場産品の活用など）や若い世代への支援を通じて、子どもや若者がいきいきと育つまちづくり、若い世代の移住・定住を支援する仕組みづくりや地元定着に取り組みます。 ④地場産業（地元企業など）や地域と連携し、だれもが居場所と役割を持ち活躍できる地域社会づくり、助け合いと地域との協働が根づく暮らしやすいまちづくり、だれもが安全・安心で快適に暮らすことができる都市づくりに取り組みます。					 多様な人財が活躍する仕組みづくり	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ①地域資源活用価値創出支援事業（委託料） 2,800千円 ②人財活躍支援事業（委託料） 6,000千円 ③地産地消のNEWソウルフードづくり事業（補助金）300千円 ④住民主体の移動支援モデル事業（委託料） 2,750千円 他						
主なKPI	①地域の人口（交流人口の増加数）（+234,752人） ②製造品出荷額等（+2,450億円） ③人財登録制度（登録された多様な人財が地域アクターとして様々な基幹事業へ参画することで行政課題の解決や地域活性化を図るもの）の通算登録人数（+120人） ④地域まちづくり協議会が主体となる協働事業への参加者数（+18,536人） ⑤湖南市移住定住サイトの閲覧回数（+8,400回） ⑥健康寿命（+0.56歳）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.shiga-konan.lg.jp/soshiki/sogo_seisaku/ch_iiki_osei/6/sougousennryaku/sougo_usennryakuhyoukakai/index.html

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

事業概要：東近江市の「森里川湖」の魅力を次世代へつなぐプロジェクト

新規

申請者	滋賀県東近江市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	23,700千円 (8,470千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・本市の地理的特徴である「森里川湖のつながり」の保全・活用を通じて自然・歴史文化を次世代へ継承する。 ・「森里川湖のつながり」の価値への共感を通じた関係人口の創出を行い、これを原動力に持続可能なまちづくりを目指す。 ・森林整備により水循環の健全性維持を図ることで、企業の安定的かつ継続的な投資を誘発し、地域経済の持続的な成長に寄与する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 鈴鹿山脈から琵琶湖までを一体とした「森里川湖のつながり」を可視化・体感できる展示や体験型事業を通じ、市民の理解と主体的な関与を促すものである。博物館展示や環境モニタリングにより科学的に流域の構造を示すとともに、巡回型イベントで関心の裾野を広げ、関係人口の創出を図る。これらにより、持続的な流域保全につなげる。 また、源流部の森を適切に管理し、「森里川湖のつながり」を保全してきた木地師文化に縁の深い自治体の首長が参集するサミットを開催する。自治体間のネットワーク構築やネイチャーポジティブの考え方に対する共感から関係人口を拡大することで、自然や歴史文化の活用や継承につなげる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・森里川湖を可視化する展示制作委託費等（人件費、技術料等）3,400千円 ・調査用PCリース費（情報機器借上料）420千円 ・木地師サミット企画運営支援委託費等（人件費、通信費、報償費等）4,650千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①関係人口の創出数（+50人） ②能登川博物館の来館者数（+450人） ③森里川湖キャラバンにおける親子連れでの参加者数（+2,200人） ④木地師サミットへの参画自治体数（+9自治体） ⑤木地師文化に関する広域メディア掲載件数（+20件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.higashiomi.shiga.jp/shiseijouhou/seisaku_sougoukeika/ku/1004388/1004413/1011758/

事業概要：ふるさと日野の“たから”を守り伝え、活かし、未来へつなぐプロジェクト

継続

申請者	滋賀県日野町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	313,169千円 (121,406千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	地域総がかりで取り組む日野を日野たらしめている歴史文化（「文化財（歴史的・文化的・自然的所産）＝日野の“たから”」と当町固有の自然・地理環境、社会・歴史環境の総体）を活かした取組を観光の振興と地域の活性化につなげ、これによる経済効果が歴史文化の振興に再投資される好循環を創出することを目的とする「歴史文化観光」の推進を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 日野町には、城跡、寺社、伝統的な町並みをはじめとした文化財が存在し、さらに、綿向山・日野川等の豊かな自然環境や自然を満喫できる施設等、観光資源を多く有する。一方、「歴史観光」や「博物館・美術館等」に関する観光入込客数は全体の14%にとどまっている。これらを踏まえ、目指す姿を実現するため、次の事業を実施する。 ①日野の“たから”の魅力発信・体験・体感事業 ②特色ある多様な日野の“たから”のブラッシュアップによる地域活性化事業 ③日野の“たから”を活かすための来訪者の受け入れ環境整備事業 ④日野の“たから”を支える人を育む事業 これらの一連の事業を推進することで、地域総がかりで取り組む“日野を日野たらしめている”歴史文化を活かした取組を観光の振興と地域の活性化につなげる。					日野を日野たらしめている歴史文化を ともに 守り伝え、活かし、未来へつなぐまち “ふるさと日野”  日野町の眺望	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ①：日野の“たから”デジタル情報発信事業（町：委託料11,309千円、需用費122千円） ②：「近江日野産日野菜」振興事業（団体：補助金11,970千円、町：日野菜振興・誘客促進人件費4,782千円、需用費3,598千円、委託料1,135千円他） ③：来訪者等の移動ニーズに応える地域公共交通検討事業（町：委託料26,423千円、負担金3,101千円） ④：日野の“たから”「祭」人材育成事業（団体：補助金2,436千円、町：報償費200千円）						
主なKPI	①観光入込客数（＋78,567人） ②事業を通じた交流人口増加による経済波及効果の増加額（＋195百万円） ③人材育成事業（養成講座等）への参加人数（＋300人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://www.town.shiga-hino.lg.jp/0000008184.html （効果検証） 令和8年10月公表予定

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

申請者	滋賀県愛荘町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	39,402千円 (13,017千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・多世代がつながり支え合う地域共生社会の実現に向け、健康づくりと居場所づくりを一体的に進める。 ・社会福祉協議会と連携し、健康教室、セミナー、ボランティアカフェ、多世代交流等を実施する。 ・参加者が地域の担い手として活動を広げ、居場所の増加、健康づくり、地域内のつながり強化につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 「年を重ねても健康で安心して暮らせるまち」を目指し、地域住民が、世代を越えて他者と交流する場に参加することで、地域課題や地域のあり方に目を向けるきっかけとし、人と人、人と地域資源との「つながり」づくりに取り組むことで、一人ひとりが支え合い・支えられながら地域における自助・互助の力を発揮し、自ら人と人、人と地域資源がつながる居場所づくりを行うことで、「担い手不足」「地域力の低下」の解決に向け、地域力を向上させ、地域共生社会の実現を図るもの。 社会福祉協議会と連携し、多世代の地域住民がつながり支え合う居場所づくりを進める。認知症予防やロコモティブシンドローム予防等の健康教室、住民が参加しやすいセミナーや教室、ボランティアカフェ、町内企業との連携による多世代交流を実施する。参加者が各地域でリーダーとなり、得たノウハウを地域へ展開することで、居場所の増加と地域共生社会の実現につなげる。					 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ＜地域共生社会2.0事業＞ 事業運営（委託料）13,017千円 （内訳） 人件費：7,975千円 消耗品費：195千円 委託料（講師料等）：3,190千円 車両費：550千円 手数料：5千円 通信運搬費：40千円 租税公課：1,062千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①愛荘町内の人口（+150人） ②地域における居場所設置数（+3ヶ所） ③つながり居場所づくり事業参加者数（+1,680人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定